

平成 27 年度公衆衛生部会 通常総会、研修会の開催

平成 27 年度通常総会を平成 27 年 10 月 31 日(土)に新潟東映ホテルにて開催し、会員 35 名が出席しました。佐藤部会長の挨拶の後、議事に入り、平成 26 年度事業経過報告及び決算報告が審議され原案通り承認されました。総会に引きつづき研修会を開催し、信州大学学術研究院農学系准教授の竹田先生から「酪農分野におけるアニマルウェルフェアの実践」についてご講演をいただきました。このたびの研修会は、公益社団法人畜産技術協会との共催で、公開講座として開催しました。会員の他に畜産関係者などの参加者を含めて合計 57 名の出席がありました。

講演では、アニマルウェルフェア(以下、AWとする)の考え方や簡単にできるAWの実践例についてご教示いただきました。

AWは、「家畜が健康、幸福で、安楽な状態」であり、AWの基本原則である 5 つの自由 (①飢え、渇きからの自由、②不快環境からの自由、③痛み、傷、病気からの自由、④正常な行動を表現する自由、⑤恐怖や苦悩からの自由) で総合評価できるものである。AWに対する誤解の例として、「AWイコール放牧」ではないこと(放牧することが家畜にとってストレスに感じられる場合もある)。また、「家畜が本来持っている全ての行動を発現させる」、「動物を殺してはいけない」ということではないとのお話でした。

AW実践例として、牛の繋ぎ方を変えるなど飼養環境を工夫することにより、正常行動(身繕いや親和行動)の発現が可能になり、AWを向上させることができる。牛群内の仲良し個体の数が多いほど親和行動であるお互いをなめ合う回数が増え、乳量も相関して増加傾向になるというお話など、畜産にも有用な取組みについてご紹介いただきました。

また、乳牛の管理者の態度と生産性との関係として、管理者が牛を「名前」で呼ぶなど、優しい取扱いが多いほど乳の生産性が向上すること、逆に怒鳴ってばかりでは生産性が低くなること、AW総合評価の点が高いほど疾病件数も減少すること、などの内容は興味深いものでした。

参加者から多くの質問が寄せられ、AWに対する関心の高さがうかがえました。参加した会員からは「大変いい研修会でした。」との感想をいただきました。



研修会の様子